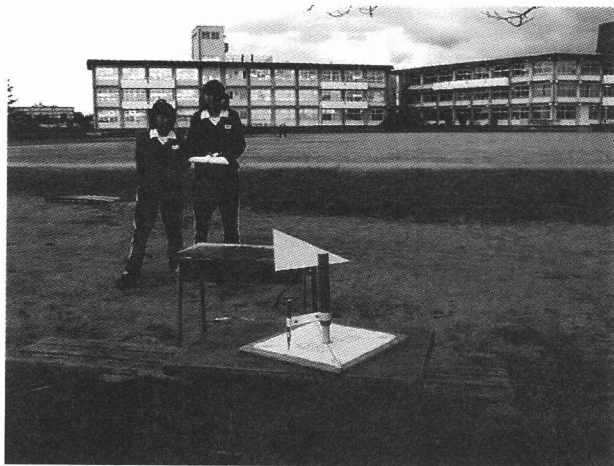


のが一般的だが、授業での観測時間は、1回目は10分間、2回目は5分間とした。

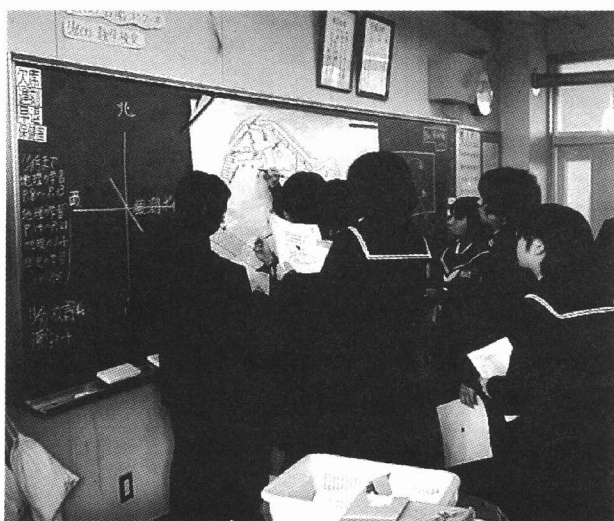


自記式風向計による観測の様子

### ③ 観測結果のまとめと考察（第3時）

はじめに、グループごとに、自記式風向計によって記録された風向を読み取った。記録用紙には、観測した時間内の風向がある幅を持って記録されているので、その中央付近の方位を8方位で読み取った。

次に、学校周辺の大きな地図に、読み取った風向をグループごとに記入した。これをもとに、観測した季節による風向の特徴や、風向と建物や地形との関係などについて話し合いを行った。



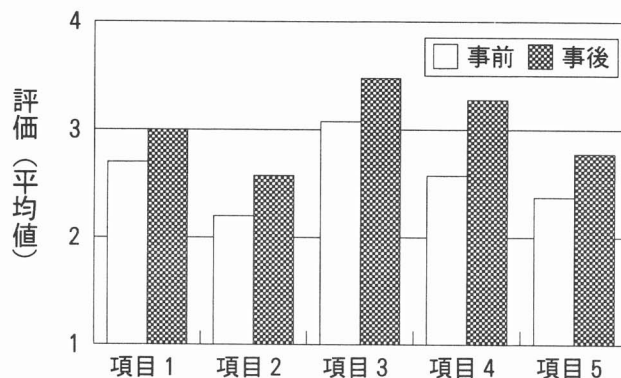
風向の観測結果をまとめている様子

## 3 結果

### (1) 生徒の活動の様子から

身近な材料を利用した風向計の製作には、大変興味を示し、意欲的に取り組んでいた。また、楽しみながら、風向の観測を行っていた。

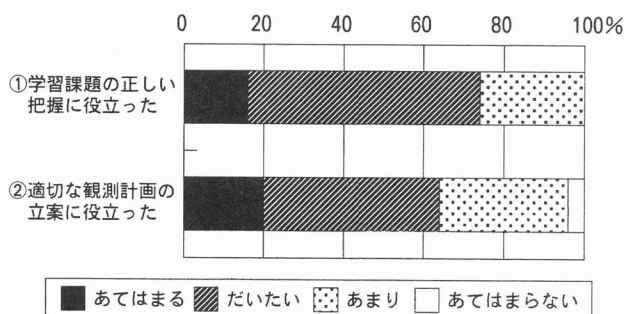
### (2) 観察や実験に対する生徒の態度や考え方の変容



- 項目 1 観察や実験を通して、学習内容を理解したい。
- 項目 2 観察や実験の手順を考えるのが好きである。
- 項目 3 観察や実験は、自分から進んで取り組む。
- 項目 4 観察や実験は、自分で手順を確認しながら進める。
- 項目 5 観察や実験の結果の考察は、一人でまとめる。

評価 4:あてはまる 3:だいたい 2:あまり 1:あてはまらない

### (3) 自記式風向計に対する生徒の評価



### (4) 生徒の感想

- ・風向計を作るのは簡単だったが、いろいろなことを考えたり、工夫してできたので、とても楽しかった。
- ・ピアノ線を使って、自分でバネを製作できるのが意外で、興味を持った。
- ・自分たちで作った風向計なので、興味が湧いたし、風向についてよく理解できた。
- ・風向計を使ったら、風向のことがよくわかった。
- ・簡単な構造の器具で風向が観測できて、驚いた。
- ・風向の観測が成功したときはうれしかった。
- ・建物の陰では、風向が何度も変化することがわかってためになった。
- ・もっと風のことを勉強したいと思った。